

# 2019年 台風19号 「長野災害救援ボランティア」活動報告

## 1. 台風19号による長野県災害

2019年10月12日に発生した台風19号により、長野県は各地で激しい雨となり、千曲川左岸堤防が決壊し氾濫。長野市を中心に、住宅や農業関連に大きな被害が発生した。



## 2. 災害救援ボランティア派遣

### (1) 連合長野・連合東海ブロックの動き

- ・連合長野は、発災の翌日に災害対策本部を立ち上げ、2週間程度でボランティア受け入れベースキャンプを設置し、東海ブロックに対しボランティア派遣を要請した。
- ・東海ブロックは11月3日～30日の間、1週間交代制によるボランティア派遣を決定し、各県連合会（愛知・静岡・岐阜・三重）に要請した。



### (2) 連合愛知の動きと現地活動

- ・東海ブロックからの派遣要請に対し、連合愛知副会長産別から各2名、連合愛知専従者から4名とベースキャンプ運営スタッフ2名の合計41名を派遣した。さらには、11月中旬以降、現地では平日のボランティアやボランティアを運ぶバスの運転手の確保が課題となっていたことから、連合愛知独自の活動として、11月19日から28日、のべ6日間、連合愛知を発着とする専用バスによる日帰りボランティアとバスの運転手等を募集し、構成組織を中心に計228名を派遣した。
- ・現地での活動は、長野市長沼地区を中心に、泥に埋まった住宅の床下や庭などの泥かき、居室の消毒作業、家具の運搬などを行ったほか、リンゴ農園で落下したりんごの片づけや泥かきなどを行った。冬の到来が早い長野では寒い日もあったが、参加者は被災者の生活復旧支援や農家の再生支援に尽力した。



## 3. キャンパ金・義援金について

- ・連合本部の「台風19号災害支援に対する取り組み」に基づき、街頭カンパをはじめ関係各所にカンパ金の協力を要請し、278,011円を集約し、連合本部を通じて台風19号による全国の被災地に届けられた。また、連合長野に義援金30万円を拠出し長野県を通じて被災された方へ義援金として届けられた。

